

化学教室の思い出

田上 多佳子（化学教室）



理学部での勤務もあと僅かとなりました。

学年末の行事が済みますと私も卒業となります。今日迄の長い間、東大に勤務出来たのは多勢の方々の温かい御指導と御支援によるものと密々感じて居るこの頃でございます。常に温かくお導き下さいました化学教室の諸先生方、適切な御助言を下さいました先輩諸兄姉、そしていつも励ましをいただき御助力下さいました事務室始め職員の方々、お世話になりました理学部事務室や他教室の皆様へこの廣報をお借り致しまして心から御礼申し上げます。

振り返って見ますと私があのクラシックな煉瓦の建物に始めて立ちましたのは昭和28年。当時教室主任でいらっしゃいました水島三一郎先生の許でのお勤めでした。短い期間でありましたがこの研究室での生活は楽しく又、感銘深く過させて戴きました。セミナーの時のあの緊張した雰囲気、先生のユーモアを混えたお話し振り、学生さんが廻す計算機の音、白衣の学生さんが廊下を走る下駄の音までもがつい昨日の事の様に思い出されます。

新制大学院発足と共に事務室に移り漆原義之先生の御指導の許で学部、大学院の教務を担当し、又白坂様、殿岡様両先輩に庶務、会計、営繕まで細かく教えて戴きました。昭和32年の物品管理の

改正はどの職場でも大きな仕事の一つであったと思いますが昔の備品を分類表に当てはめて新台帳に移すこの作業には大層時間がかかりました。複写機も無く、ガリ版鉄筆、ソロバン、万年筆は机上から離せません。「顔に謄写板の墨がついてますよ」と学生さんに云われた事もしばしばで、全く手作業の時代であったと思います。しかし教室の雰囲気は家族的で、昼休みは今より広い中庭でバレーボールやバトミントンを教職員学生が混って楽しみました。助手会も意気盛ん。予算配分の時期などは大きな声が飛んで参ります。卒業生も明治大正の会をつくる等活気に満ちておりました。

昭和37年秋、本館完成と同時に事務室も移転し現在に到っておりますが、この頃から学生数の増加、講座数も増え、事務の内容も変化してその事務量も増大してゆきました。更にその後に行った大学紛争は職員にとってもけわしい日々でした。

昭和58年の新館増築については大木先生を中心に毎晩遅くまで施設部の方達と折衝が続きました。完成した時は本当にほっと致しました。

昼休みの句会、秋津溪谷や奥多摩のレクリエーション、1960年につくられた職員懇親会の六〇会等の楽しい思い出、多くの先生方や職員の方々とのお別れもありました。あれもこれも皆歴史の中に入ってゆきます。

沢山の苦楽を共に過して参りました鈴木美和子事務官、宮崎節子事務官、平尾宣子事務官始め事務室の方々には大変お世話様になり、ありがとうございました。

学生さんについては単位の事等で喧しかったと思いますが、進学生から年々大人に成られてゆく元気な方々に毎日お会い出来ますのは私の大きな喜びでありました。ダイバース先生像を囲んでの

夏の夕べのビヤパーティも思い出の一つです。時には人生相談を、時には冗談をかわしていた学生さんが立派な社会人になって大学に見えられた時、教室にお勧めした喜びを泌々と感じる時でございます。

色々な時代をじっと眺めていた時計台にも、又その四季を楽しませてくれた構内の樹々ともお別れが近くなりました。

理学部での38年間の様々な思い出はこれからの私の心の中に光りとなって支えてくれることと思います。

今後21世紀に向って理学部が大きく発展してゆくことを、そして皆様の御活躍と御健康をお祈りしてお別れの言葉とさせていただきます。理学部の皆様有難うございました。